

パノラマ銀座（燕岳・常念岳・蝶ヶ岳）縦走

山行日：2022年6月26日（日）～29日（水）

参加者：L O田（記）、SL S井、A柳

場所：北アルプス（燕岳・常念岳・蝶ヶ岳）

工程：26（日）松戸＝穂高駅 10:25＝中房温泉 11:20-合戦小屋 14:20-燕山荘 16:00（泊）

27（月）燕山荘 9:50-大天荘 13:36-大天井岳 14:00-大天荘 14:10（泊）

28（火）大天荘 6:00-常念岳 10:10-蝶ヶ岳ヒュッテ 14:16-蝶ヶ岳ヒュッテ 15:10（泊）

29（水）蝶ヶ岳ヒュッテ 6:30-蝶ヶ岳 6:35-徳沢 9:55-上高地 13:00＝松本＝松戸

北アルプスで人気の高いパノラマ銀座縦走に行ってきました。例年のない6月末の梅雨明けにも恵まれ、槍穂の展望と高山植物を堪能できた贅沢な4日間でした。

26（日）：曇り

狩人が唄った新宿8時発の「あずさ2号🎵」（古い！）ではなく、7時発の「あずさ1



合戦小屋にて

号」に乗っていざ松本へ。大糸線に乗り換え、穂高駅で下車後、予約しておいたタクシーで中房温泉近くの燕岳登山口に向かう。この日は、北アルプス三大急登の一つと言われている合戦尾根を燕山荘までの登り。途中の合戦小屋では、2日前から販売を始めたという名物のスイカにありつけてラッキー。曇り空のお陰で、それほど汗をかかずに済んだが、眺望はもうひとつ。このため、当初予定の燕岳までのピストンは、翌日に延期し、早々にビールとワインで乾杯。燕山荘では、夕食時のオーナーによる山の

話とアルプホルンの演奏を楽しみにしていたが、当日は下山中とのことで残念。

27（月）：雨のち曇り

雲海からのご来光は望むべくもなく、残念ながら朝から土砂降りの雨。午後からは天気も回復しそうということで、出発を遅らせるとともに、宿泊先も常念小屋から大天荘に変更。小雨になったのを見計らって、イルカ岩までの往復後、大天荘を目指す。登山道では、雷鳥が先導してくれ（追いかけてはいません）、別れ際には見送りのポーズまで大サービス。時々、雲の晴れ間から裏銀の山々が見えるが、雲行きが怪しい。雷鳴に遭遇したため



縦走コース途中にて



常念から槍を望む

窪地で聞こえなくなるまでやり過ごす。稜線での雷は本当に怖い。登山道では、いたる所で高山植物が咲き乱れ、休息タイムを兼ねた写真撮影の回数も増える。ごつい岩とけなげに咲く花のコントラストがなんとも言えない。この日は会う登山者も少なく、縦走路はほぼ我々が独り占め。東鎌尾根を開拓した小林喜作のレリーフを過ぎてから、大天荘までの登りが結構キツイ。大天荘に到着後、今回の縦走コースの最高峰となる大天井岳へピストン。大天荘では、当日の宿泊依頼にもかかわらず、メインディッシュの選択が可能ということに驚く。肉にするか魚にするか、トンカツも出来るというので、全員がトンカツを選択。これがまた美味しい。さすが燕山荘グループ、お薦めの山小屋である。

28 (火)：晴れ

3日目にしてやっと朝から晴れ。この日は大天荘から常念小屋までの長丁場。出だしは右手に槍穂の大パノラマを見ながらの楽々稜線歩き。このまま蝶ヶ岳ヒュッテまで続けば言うことなしであるが、さにあらず。常念小屋から常念岳までの岩と砂礫のジグザグの急登が辛い。おまけに、遮るものがない中を強風で時々煽られる。午後の疲れが溜まってきたところで、蝶ヶ岳の登りがダメ押しで待っている。それでも、圧倒される槍穂の大パノラマに自然の大きさを感じ、縦走の疲れなどちっぽけなものに見えてくる。

29 (水)：晴れ

夜明け前、ご来光をみるためにヒュッテ近くの方角盤まで行く。穂高に映えるモルゲンロートが見られればと思っていたが、残念ながら期待はずれ。蝶ヶ岳ピークに立ち寄り、徳沢までの長堀（ながかべ）尾根を下山。直ぐに樹林帯に入るため眺望は望めないが、長堀山手前のお花畑が見事。下るのに飽きてきた頃、徳沢に到着。徳沢園のコー



徳沢園名物

ヒーソフトが冷た

くて美味しい。上高地では、アルプス山荘で汗を流し、お薦めのよなよなエールで一息ついた後、帰路につく。

今回の縦走は、雨あり、雷あり、風あり、晴天ありで、多くの花と雷鳥にも会え、絶景の中の贅沢な山行であった。それにも増して、素敵なメンバーと縦走を楽しめたことに深謝。



蝶ヶ岳からの大パノラマ